

スピードスケート・ジャパンカップ

土屋がランキング1位



▲活躍が期待される土屋

スピードスケートのジャパンカップ競技会(全営スケート場)の5000(5戦)の第3戦終了時点で、土屋良輔(経営1・婦恋高)が男子5000以下のランキングポイントでトップに立っている。

第1戦(11月8〜10日、明治北海道千勝オーバル)の5000(2)で2位、1万(13分55秒72)で優勝。第2戦(11月23、24日、札幌市真駒内セキスイハイムスタジアム)の5000(6分49秒43)で優勝。第3戦(11月

30日〜12月1日、岩手県営スケート場)の5000(2)でも2位と、練習での調整がうまくいき、調子が上がってきた結果」が成績に表れてきている。

ユニバーシアード冬季競技大会(12月11〜21日、イタリア・トレンティーノ)に日本代表として出場する土屋は「表彰台を目指すと力強く語ってくれた。世界を舞台にした活躍が期待される。」(鷺尾凌平・経営1)

バスケットボール・全日本大学選手権

男子5位 女子6位 全日本総合出場へ

全日本大学バスケットボール選手権(男子11月26日〜12月1日・代々木第二体育館ほか、女子11月19日〜24日・山口県周南総合スポーツセンター)が行われ、専大は男子が5位、女子が6位。男女ともに1月の全日本総合選手権への出場が決まった。

男子は準々決勝で東海大に敗れたものの、天理大に66-56、5位決定戦で白鷗大に70-65で勝利した。

エースとして、5試合で132得点(1試合平均26点)と活躍した宇都直輝(経営2・中部大第一高)は「けがで調子は悪かったが、昨年より上の順位にいたことはうれし。最後に勝って終えることができ、仲間感謝している」と話した。



▶チームをけん引し続けた宇都

戦では愛知学泉大(65-50)、拓殖大(67-70)と対戦し、6位に終わった。(阿部理志・文1)写真

バドミントン・関東学生新人選手権

創部初の団体優勝

11月1日から12月3日まで、所沢市民体育館ほかで関東学生新人バドミントン選手権が行われ、専大Aチームが優勝した。団体戦での優勝は創部以来初である。



▲優勝した専大Aチーム

今大会はダブルス2組とシングルス1組の計3試合で、2ゲーム先取で行われた。専大Aは1回戦を2-0、2回戦を2-1、準決勝を2-1で勝ち進み、決勝は明大と対戦した。ダブルスの1組目がフルセットの末にゲームを落とすも、福永彩(文2・昭和学園高)・奥芝清加(経営2・小樽潮陵高)の2年次生ペアが快勝。福永がシングルスでも勝利を収め、優勝を決めた。

出場試合で全勝した福永は「このメンバーは決まっていたと思う。自分が優勝できてよかった。新人戦の団体戦優勝は創部初。来季は今年よりも上を狙えるように頑張りたい」と話した。(小川写真)

個人総合で 植月3連覇

体操・霜月杯

16大学対抗体操競技交流大会霜月杯(11月10日、首都大学東京南大沢キャンパス)の個人総合の部で植月悠麻(商3・洛南高)が優勝。大会3連覇を成し遂げた。また団体でも総合成績5位と健闘した。

レスリング・全日本大学選手権

66kg級 近藤達が3位

近藤は初戦の予備戦でリーススタイルで戦い、合腰を痛めるも、順調に勝ち進む。準々決勝では今大会準優勝の濱本(山梨学院大)からポイントを奪えず、テクニカルフォール負け。敗者復活戦で神奈川大の池田との接戦を判定勝ちし、3位決定戦では同志社大の平野にテクニカルフォール勝ちした。

東日本学生レスリング(商1・花咲徳栄高)が、秋季新人選手権(11月20日、駒沢体育館)は、66kg級で魚住彰吾(経済2・育英高)が、西スタイルを制覇した。

東日本学生レスリング(商1・花咲徳栄高)が、秋季新人選手権(11月20日、駒沢体育館)は、66kg級で魚住彰吾(経済2・育英高)が、西スタイルを制覇した。

東日本学生レスリング(商1・花咲徳栄高)が、秋季新人選手権(11月20日、駒沢体育館)は、66kg級で魚住彰吾(経済2・育英高)が、西スタイルを制覇した。

東日本学生レスリング(商1・花咲徳栄高)が、秋季新人選手権(11月20日、駒沢体育館)は、66kg級で魚住彰吾(経済2・育英高)が、西スタイルを制覇した。

馬術・全日本学生

総合馬術で準優勝

3種目総合では3位



▲準優勝の見目(横)ユナイテッドフォトプレス提供

学生賞典障害飛越競技大会、学生賞典馬場馬術競技大会、学生賞典総合馬術競技大会の3大会からなる全日本学生馬術大会(11月2〜6日、JRA馬事公苑)が開催され、専大は総合馬術で1位の目大に一歩及ばず、準優勝。団体戦、個人戦の総合成績で競う3種目総合では3位に入賞した。

個人戦では見目瑛(経営2・宇都宮白楊高)・エンドーペロー号組が総合馬術で首位に僅かに届かず、惜しくも準優勝となった。見目は「勝利への執念と馬を信じる気持ちが準優勝という結果に結びついた。今年は代々乗継がされている名馬に乗せてもらい、プレッシャーを感じることもあったが、成長を感じる一年となった」と今年を振り返った。(齊藤麻莉奈・経営1)



▲優位な体勢で試合を制した近藤達

近藤は初戦の予備戦でリーススタイルで戦い、合腰を痛めるも、順調に勝ち進む。準々決勝では今大会準優勝の濱本(山梨学院大)からポイントを奪えず、テクニカルフォール負け。敗者復活戦で神奈川大の池田との接戦を判定勝ちし、3位決定戦では同志社大の平野にテクニカルフォール勝ちした。



▲優勝した魚住、中村、与那覇(後列左から)と入賞した近藤雅、原田、北村(前列左から)

東日本学生レスリング(商1・花咲徳栄高)が、秋季新人選手権(11月20日、駒沢体育館)は、66kg級で魚住彰吾(経済2・育英高)が、西スタイルを制覇した。中村は「春季は準優勝だったので今度こそは優勝と思っていて、全日本へのステップアップと考へた。目標は達成できなかったが、良い勉強になった」と振り返った。

魚住は「やっつと、やっつと優勝できた」と1年次からの思いを込め、安堵の声を残した。西スタイルを制覇した与那覇は「今年の締めは全日本選手権だが、学生最後の大会で結果を残したことは自信になる」と話した。

また、フリーでは66kg級で原田駿(商2・島原高)、同74kg級で近藤雅貴(経営2・八幡浜工高)が3位。グレコでも55kg級で中村、同60kg級で北村侑磨(経済2・玉名工高)が3位となった。(小川史緒梨・文2)写真

リーグ戦結果

主なる部のリーグ戦の結果は次のとおり。

関東大学アイスホッケーリーグ戦(9月7日〜12月1日)ダイドドリノコアアイスアリーナほかは0勝1分13敗でデレビジョンリーグA 8位。同グループB1位の日体大との順位決定戦もオバータイム(延長戦)の末、2-3で惜敗した。

関東大学アメリカンフットボールリーグ戦(9月7日〜11月10日)アミノバイタルフィールドほかは、1部Bブロックで2勝5敗・勝ち点6で

国際大会 出場選手

◇フェンシング部 玉川 由貴(文1・東亜学園高)ジュニア・ワールドカップ・フランス大会(1月5日)フランス・ディジョン)※エベ